6 月 5 日（金）ABC 区分　ポスター会場（展示ホール）【呼吸 3】

P1-C-0343

安定期慢性閉塞性肺疾患（COPD）患者の筋肉量における栄養状態の影響

神野麻耶子[1)]，重森　健太[2)]

[1)]独立行政法人国立病院機構　高知病院，[2)]関西福祉科学大学　保健医療学部

key words　**除脂肪量・栄養・サルコペニア**

【目的】COPD において低体重は気流制限とは独立した予後予測因子である。理学療法において筋力トレーニングなどの運動療法をすすめる上で，低栄養の存在は効率的な筋力増強効果が得られにくい。また，サルコペニアは加齢による筋肉量の低下であるが，それは筋力や運動能力の低下を招き，容易に ADL を下げることが想像される。COPD は慢性の消耗性疾患であり，栄養障害や疾病などによる 2 次的なサルコペニアの存在は，リハビリテーションにおいても治療内容を左右する重要な情報といえる。現在，栄養障害のスクリーングとして MNA-SF の有用性が検討されており，今回安定期 COPD 患者の栄養状態がどの程度除脂肪量に関係しているかを検討した。
【方法】2013 年 12 月 24 日より 2014 年 6 月 11 日に国立病院機構高知病院外来通院中で同意の得られた安定期 COPD 患者 53 名に対して，MNA－SF による栄養評価をおこない，良好群と不良群（At risk，不良）に分類した。GOLD の重症度（GOLD の総合的評価），BMI，CC（下腿周径）血液データ（総蛋白，血清アルブミン），生体インピーダンス法（TANITA 社製 BC-622）で計測した除脂肪量から SMI（四肢骨格筋指数）をだし比較検討した。統計処理は SPSS.ver20 を使用して，スピアマンの順位相関係数と，対応のない T 検定を用い危険率 1% を有意水準とした。
【結果】MNA-SF と BMI との間には有意な正相関を認めた（$r=0.513$，$p<0.01$）。しかし，COPD の重症度や血液データとの有意な関連はなかった。MNA-SF による栄養評価は，良好群：17 名，不良群：37 名（At risk：29 名，低栄養 7 名）であった。両群において除脂肪量が良好群：44.6±4.8kg，不良群：40.51±5.28kg（$p<0.01$），骨格筋指数が良好群：8.41±0.99，不良群：7.48±1.06（$p<0.01$），下腿周径が良好群：34.7±2.5cm，不良群 30.6±3.7cm（$p<0.01$），BMI で良好群：24.0±2.6kg/m^2，不良群：20.5±3.1kg/m^2（$p<0.01$）と有意に差があった。
【考察】COPD 患者の病態を把握するためには，MNA-SF が有用なツールになる可能性がある。またこれらは，筋肉量との相関もあり，2 次性サルコペニアが存在する可能性がある。このことは，運動療法のみならず栄養療法を併用することで効率的な機能・能力向上が得られる可能性を意味し，患者の栄養状態の把握や低栄養への他部門との協力もリハビリテーションには必要であると思われる。